



◇「ロジ研の皆様へ」

東ト協副会長
ロジ研副本部長・本部連絡委員長
田中 敏之
〔千代田支部 新聞輸送(株)〕

7月8日に開催された理事会において千原会長体制がスタートし、副会長を仰せつかることとなりました。

また、既にご周知の通り、千原会長より「10の施策」が打ち出され、東ト協は正に新時代への第一歩を歩み始めました。

協会事業に携わってまだ数年の私は、常に諸先輩方よりご指導を頂いているものの、正直なところ東ト協の歴史を語れるほどの経験値がありません。このような私ができること、それは「知らない」ということを武器に新しい目線で携わることなのではないかと思っております。

私の性格は皆様ご存知の通り、わりとはっきり物を言うタイプです。それ故、敵視されることもあります。腹を割って話せる奴だと買って下さる方もいらっしゃると思います。

これから東ト協は新しい時代を進みます。私はこの性格を活かし、千原会長の下、10名の副会長の皆様と共に風通しの良い協会づくりに励んで参りますので、何卒ご指導賜りますようお願い申し上げます。

◇スケジュール《○ロジ研行事予定》

- 9/12(月)14:00～ 正副本部長会議(東ト総合会館6中)
- " 15:30～ 第1回オープンセミナー(東ト総合会館4階)
- 9/23(金)16:00～ 三組織連絡会(東ト総合会館6中)
- 10/13～17(木～月)～海外研修(ミャンマー) ※日程調整中
- 10/30(日) ～ 東ト協トラックフェスタ(代々木公園)
- 11/18(金) ～ 第2回オープンセミナー ※日程含め調整中



◇「青年部本部長挨拶」

青年部本部長
結城 賢進
〔深川支部 結城運輸倉庫(株)〕

この度、6月の総会で青年部本部長を仰せつかりました、深川支部の結城賢進と申します。改めまして、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は東ト協設立50年の節目の年、一昨年には青年部として設立30年を迎え、その歴史の重さをひしひしと感じるとともに、これからの新しい時代への期待を寄せているところです。

先輩からのバトンをしっかりと受け継ぎ、青年部の求められている立ち位置と、期待されている役割をしっかりと認識した上で、会員の皆様にとって価値を見出せるような事業・活動を推進していきたいと思っております。

青年のフィールドの柱は、ヒューマンネットワークの構築と、一経営者としての見識や気概を身に付けることです。そしてそのことが、会員各社の社員の皆様がいきいきと仕事をするにつながり、結果的に私達トラック運送業界の発展に導くものと信じております。

今年は、50周年事業や初めての外部発信型イベントのトラックフェスタ2016等、東ト協が一枚岩となって大きな一歩を踏み出す絶好の年であると思っております。青年部としても積極的に参加し、事業の成功のために尽力していきたいと思っております。

最後になりますが、ロジスティクス研究会のさらなるご発展を祈念し、皆様ならではのご指導や叱咤激励をお願い申し上げ、挨拶に代えさせていただきます。

今後ともよろしくお願いいたします。

◇「ロジ研健康増進富士登山」

広報副委員長 武井 一憲
〔文京支部 (有)武井物流〕

7月30～31日(土、日)の1泊2日で開催をいたしました富士登山、とある大先輩の一言から始まったこの企画ですが、これまた別の大先輩から『武井、お前が企画しろ』との指令がでまして、齋藤部長の力を沢山お借りして開催をする運びとなりました。

数日前に梅雨が明け、開催当日は快晴となり一安心。最高の登山日和になりました。

女性を含む16名で東京都トラック総合会館より、登山口の五合目を目指してスタート、途中の道は大渋滞でしたが、スケジュール通りに到着。現地集合の2名も加わり、昼食や登山準備を行いながら五合目に体を順応させ、13時頃に七合目の山小屋、東洋館を目指し登山開始。

初めは景色を楽しむ余裕もありましたが、だんだんと勾配もきつくなり、石も増えてきて、躓かないように下を向いて黙々と歩くようになってきました。六合目の手前で名誉の棄権が1名ありましたが、その六合目付近の気温は暑いぐらいで、私は半袖短パン姿で登山を続け、休憩を取りながら、ゆっくりと進み、約4時間かけて東洋館に到着しました。



【登山道(吉田口)】

東洋館での休憩中、太陽が沈みかける綺麗な夕闇空と、御殿場、山中湖、河口湖の夜景を楽しむ事が出来ました。

仮眠休憩中、私も含め数名の方が寝ることができずに大広間でコーヒーを飲みながら集合時間まで談笑をしていました。混雑が予想される事から、予定を早めて20時30分過ぎには集合し、山頂へ向けて出発となりました。

そしていよいよ山頂へ向けて登山再会、昼間とは違い防寒対策の装いに変わり、頭にはヘッドランプを装着し、岩がゴツゴツしてさらに険しくなった真っ暗な道を登り始めます。ここで1名が名誉の棄権。本当に真っ暗でヘッドランプの明かりだけが頼りの状態、しっかりと足元を照らし、踏み外したり転ばないようにストックや手を使いながら登っていきました。昼間よりもゆっくりと、もちろん休憩も多めに取りましたが、足に掛かる負荷も更に増えていき疲労も蓄積されていく状況で、休憩時に見上げた星空には天の川が見えました。北斗七星も地上で見るとより大きく見え満点の星空、疲れによって気が滅入っている所での天体シ

ヨーは、「ヨーシ頂上まで行ってやるぞ!」という気持ちを大きくしてくれました。ちなみに、目線を下にずらすと山梨、静岡、神奈川の街の明かり、そして遠くには雲をオレンジ色にしている東京の明かりが見えます。そしてさらに目線を下にずらすと、山頂をめざすヘッドランプの明かりの列が登山道を照らし一筆書きのように続いていました。

八合目の最後の山小屋に到着し、この付近ではすでに気温は10℃以下。ここで下山の事を考え名誉の棄権が2名、八合目の山小屋でゆっくり休んで帰りに合流。

さて、15名となった本体は山頂を目指します。この頃には歩いていても寒さを感じるようになり、さらに防寒服やレインウェアで防寒対策をして、九合目の鳥居をくぐる前に休憩、ここで御鉢巡りをするチームと頂上だけを目指すチームとで分かれて、私は御鉢巡りをするチーム(5名)に入り頂上を目指すことに、御鉢巡りは普通に巡ると2時間近くかかるので、ちょっとスピードを上げて山頂を目指しました。

山頂へ登頂して浅間大社の石柱の前で記念撮影、すぐに御鉢巡りを始めましたが、すでに結構な人数が御来光待ちをしていました。

御鉢巡り中の休憩でも、リュックを背負いながら空を見上げていた時に、日本一高い場所から見る星空はすごく星が近く感じるのと、星空の中に流れ星とは別に、小さな光がスーッと一直線に進んでいるのが見え、それが人工衛星だと教えてもらった時に感動をしました。

富士山頂で一番高い剣ヶ峰を巡った後、ガイドさんが「今日は本当に天気良くこの状態だったら綺麗な影富士が見られる」と教えてくれました。影富士とは、御来光を浴びた富士山の影が太陽と反対側にできることで、条件が良くないと綺麗に見えないそうです。今回は雲海ではなく、街に霧かモヤがかかっていた状態でしたので、東を向くと素晴らしい御来光、西を向くと綺麗な影富士を見ることが出来ました。もちろんみんなで記念撮影をして、ガイドさんも自身のスマホで記念撮影をしていました。



【浅間大社石柱】



【影富士と記念撮影】

御来光を待つ間、山頂の気温は6℃ぐらいで風が強く吹いていたので体感温度が0℃ぐらいで、本当に寒い中ではありましたが、あまりにも眠かったのでウトウトしてしまい、ガイドさんから「御来光出るよ」との声がかからなかったら、そのまま良い気持ちで寝てしまっていたのではないかと思います。一人ではなく仲間とガイドさんが居てくれて良かったと思いました。



【ご来光】

御来光を見て私が感じたことは、空が黒から紫、濃いブルーから淡いブルー、そして薄い黄色からオレンジへとグラデーションになっていって、それまで寒かった体が太陽の光を浴びた途端に温かさを感じてきて、太陽が昇って行くにつれてどんどんと温かさも増していく、本当に太陽って凄いな、太陽の光って大切なのだなって感じました。

景色を堪能した後は御鉢巡りの続きで、富士山の大火口と小火口の間を歩き、富士吉田ルートの方の所に戻り、しばし休憩をした後に下山。

上りは周りが真っ暗なのと足元が危ないので下を向いたまま登っていたので、気が付いたらここまで登っていたという状態でしたから、あまり苦にはなりませんでしたが、下りはルートが下の方まで見えるので、心が折れそうになったのと、火山特有の小さい砂とか石の下山道なので足が取られやすく、体重が重いので足に掛かる負担が登り以上にあり、七合目の山小屋に着いた時には、トイレで膝が笑っているのを抑えられない状態でした。

それでも何とか六合目まで下りてきた時に目にしたのが行きに見たお馬さん、このお馬さん、もう下りるのに足がもう駄目だという時に活躍してくれるそうですが、七合目からは3万円、六合目からは1万5千円で使用できるそうです。いっそ乗ってしまおうかとも思いましたが、一緒に御鉢巡りをした先輩たちが元気に下山をしているのに、一番年下の私がお馬さんに乗って下山したら後で絶対に言われてしまうので、自分の足に鞭を入れて気合を入れて下山しました。下山してから聞いた話ですが、とある大先輩



【吉田口下山道】

2名の方がお馬さんを利用して下山したと聞きました。

登山を始める前の五合目のレストランで、富士山の地ビール缶が自販機で売っているのを見て、無事に戻ってきたら自分へのご褒美で飲むぞと決めていました。フラフラになって五合目に戻ってきてから飲んだ富士山の地ビールは今まで飲んだビールの中でも一番と言えるくらい本当に美味しかったです。

この後、9時過ぎに全員が集合をして、お土産や着替え、レンタルで借りた物の返却をした後に山中湖近くの紅富士の湯というところで、富士登山の疲れと汗を流しました。このお風呂も本当に気持ちよく疲れた体をほぐしてくれました。

今回の富士登山、ひょんなことから企画委員長になり色々準備をしましたが、殆どを齋藤部長にお願いをしていました。この場をお借りして御礼を申し上げます。また、参加者の皆様には良い天気にも恵まれて個々それぞれの富士登山を楽しまれたと思います。私としましては、出発場所の東京都トラック総合会館に戻ってきたときに、大先輩の方達から良かったよと言ってもらえたのが本当に嬉しく思います。そして、参加者の皆様が怪我や事故もなく無事に帰ってこられたことで、この富士登山企画は成功したのではないかと思います。

皆様どうも有難うございました。そしてお疲れ様でした。



【富士登山参加者全員での記念撮影】